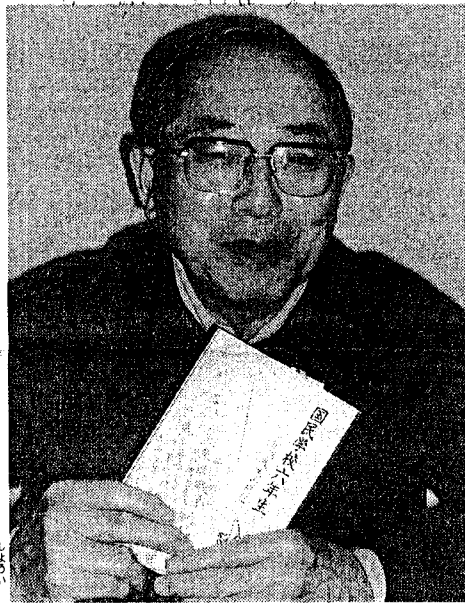


六十四年前、大阪府池田市の市立呉服小学校（当時の大阪府池田市呉服国民学校）六年生だった少年の日記が、一冊の本『国民学校六年生―田原茂生の日記』（岩田書院）として出版された。日米開戦の日をほさんだ日記は、子供の目で見た戦前・戦中の学校生活や家庭を生き生きと伝える貴重な資料となっている。

著者は、神奈川県藤沢市に住む田原茂生さん（モモ）。田原さんは横浜国大卒業後、石川島播磨重工業で造船技術などを務め、定年後も国際協力機構（JICA）に参加して海外で造船技術の指導にあたってきた。

日記は、田原さんが父親の転勤で東京の小学校から呉服国民学校に転入した昭和十六年四月一日から十七年三月十七日まで

# 戦時下のびのび 6年生日記



日記をもとに新たに出版された本を手にする田原茂生さん。「昔は先生がナイフの研ぎ方まで教えてくれたんですよ。今では考えられないね」と笑う―神奈川県藤沢市の自宅

での日常をつづっていたに刊行した。田原さんは当時、梅林さんから「中学への進学四冊分の日記を、当時の希望者は毎日、日記を書きだした梅林武雄さん（五）が編集して平成九年に自費出版。これを読んで呉服小の室田卓雄校長（五）が小学生にも読みやすいよう旧字を新字に直すなどして、今回、新たな日記をもとに新たに出版された本を手にする田原茂生さん。「昔は先生がナイフの研ぎ方まで教えてくれたんですよ。今では考えられないね」と笑う―神奈川県藤沢市の自宅

で焼夷弾の消火をしたことなど、毎日の出来事が生き生き描かれている。また、昭和十六年十二月八日、日米開戦の日の日記には、学校の朝会や修身の時間に校長から日米戦争の話があったことや、その夜から警戒管制が敷かれたことなどが記されている。開戦ととも

## 池田・呉服小OB 田原さん「教育環境は良かった」

に学校行事の戦時色が濃くなっていたが、放課後にはグライターを飛ばして遊んだり、中学入試のための準備をするなど、学校生活は穏やかだった様子が見える。

室田校長は「日記を読むと、当時六年生だった田原さんが、戦時下でも、勉強や遊びに一生懸命だったことがよくわかります。今の子供たちが当時の日本に興味をもってもらえるきっかけになれば」と話す。

田原さんは、「戦時中の学校は軍国主義でしめつけが強かったと思っっている人が多いでしょうが、実際は今の子供たちより伸び伸びと遊んでいました。先生との関係も濃密で、私はいい先生に感化されたと思っています。教育に携わる先生方にも読んでいただければ」と話していた。